

東京工大クロニクル

Tokyo Institute of Technology Chronicle

No. 159

July 1983

主 要 記 事

夏休み特集……………	1
第15回学内五月レガッタ…	5
科学研究費配分内定…………	7

夏 休 み 特 集

人間とのふれあいの 季節にしては

片山功蔵

コンピューター・試験管・ロボットのような固い物に頭の向くのが常日頃の人には、夏休みは自己発見を含めた人間とのふれあいの季節にすることを勧めたい。

そのためにはこのような旅も良いだろう。東京散歩でも良いが、ワイド周遊券と沢山の時間を用意してどこかへ旅立つことにする。ガイドブック・時刻表は止めて文庫本の解説日録をポケットに入れて行く。

見知らぬ土地に着いたら、その街にあたかも10年程住んでいたような気になって歩いてみよう。時間は十分あるのだから次にその街の博物館、美術館か図書館を訪ねてみよう。最近では地方の都市程立派な施設が多いようだ。例えば金沢の街で室生犀星・泉鏡花の故谷口吉郎先生設計の文学碑を見たら図書館で小説をちょっと読んでみることになる。面白そうと思ったら総合目録のその項に金沢と書いておく。本は重いから旅先では買わないで帰ってから読むことにしたい。図書館で百科辞典を開くとガイドブックより正確な土地の情報が得られる事が多い。優雅な気持と、豊富な時間を持つ旅は、自然と心豊かな人間とのふれあいを醸し出すものである。

旅へ出るのも面倒だという不精な人には、見知らぬ国のガイドブックをおすすめしたい。ヨーロッパならMichelinタイヤ社の緑の細長い本（英語版もあり東京の本屋で買える）などが良いだろう。政治・経済・歴史・文化などが要約され、見知らぬ街々に強くなってしまう。ブルーガイドブックのように日本製の良い本もあるが、Jパック・農協ツアー向けに内容がやや片寄っている事もあるようだ。

スペインのガイドブックを眺めていると、ドン・キホーテ、コロンブス航海記とか、誰がために鐘が

鳴るなど、あのうら漂しく明るい国の人間性のあふれた本が読みたくなるものである。未知の国の人との心のふれあいができるかも知れない。

さて、毎年楽しみにしている夏休みが終る頃になると7月に考えたプランは実行できなかったことばかりなのを発見して淋しくなるはずである。解説目録にマークを付けた本は読書の秋にぼつぼつ読むことにして、夏休みの終りには“来年の夏こそ”と考えるのが良いのである。

これの繰り返しが人生なのかも、と自己発見する夏休みだったら、夏休みの過し方の自己採点は合格とするか、不合格と判定するか、それは貴方自身と貴方の内なる人間性とのふれあいの出発点かも知れない。
(工学部機械工学科 教授)

私の夏休み

高橋正子

学生時代から今まで過ごして来た数々の夏休みを振り返ってみて、その大部分は正直なところ、何をしたかさっぱり思い出せないというのが実状です。しかし記憶の糸をたどっていくと、大学時代、会社にアルバイトという名目で1ヶ月位通い、初めて計算機のプログラムを教えてもらった時のこととか、留学時代に、下宿していた家の人に連れられてアメリカの田舎でのんびり過ごした数週間のこと、また、締切りに追われて連日論文の仕上げに汗だくになった夏のことなどが次々と脳裡をかすめます。しかし私の場合、そのどれをとっても自分の考えでこうしたというより、周囲の状況から何となくそうなったという方が正しく、そのため今回「クロニクル」に夏休みの過ごし方について書けと言われて大変困惑している次第です。その責めをふさぐために敢えて貧しい経験の中で私が感じていることを言うとするれば、

次のようなことがあげられます。

(1) 成り行きまかせの夏休みというものも存外悪くない。

(2) 旅に出るなら、あちこち忙しく歩きまわるより一個所になるべく長く滞在してそこで生活してみてもどうか。個人の好みにもよると思うが、普段と違った環境の中で相当期間暮すということは、時に本当の出会いが新しい人や事物との間に生まれ、いろいろな意味で思いがけない発見の連続で実に楽しい。

最後に、今年の私の夏休みは、中国の大学院予備教育のため約2ヶ月半、理学部の他の三人の先生方と長春に行くことになりました。これも成り行きまかせで、はじめは仕方なくお引き受けしたのですが、楽しい旅になれば良いと思っています。

(理学部情報科学科 助教授)

変り種の夏休み

茶谷正洋

48才の低抗か、昨夏来、折紙建築の個展など開き、その年で稀有の童心とからかわれている。2月に4チャンネルで研究室から折紙建築生放映の折、お世話下すった縁での本欄御指名らしく、にこやかな委員長のお顔がほの見える。

大岡山に学んだ頃の夏休みを模範的に過したはずはないが、学生諸姉姉への希望とノスタルジィの繰言をないまぜて、あまのじゃくのヒントは綴れそう。

自分の専門コースの他に、もう一つは何か好きな道をさぐりたい。今や長い人生、表裏差し替えのきく芸に秀でるのが夢。もう一つという世界は、クラブ活動でも、硬軟いづれの趣味でも可、いつ来るか判らない地震津波のようなスランプを乗り切って、きっと豊かな老後が待っている。興味過多症の仁はもうひとつ三業?に志してもと、そそのかしたい。

一昔前、工大は一ッ橋と合併して、ついでに女子大とも一緒になったらいいなんて一口咄をきいた。成程、彼女と仕事の両方まかなえる勘定だな、そんなバランス感覚も近頃の若者はチャンと備えているらしい。むしろチャッカリ君には、一芸に徹し、思索にふけり、大いに悩めと言う可きか。

ひろく、語学・美術・歴史を通じて先哲の知恵に学びたい。日本語の古典から仮名俳句まで、英語のギリシャ・ローマ文学からスラングまで。手取り早く度胸もつづくのは内外諸国の旅。ゲーテ作ヴィル

ヘルム・マイスターの修養時代、そして遍歴時代の二著のようなロマンをおって欲しい。私の場合、それは外貨制限の厳しかった28才の夏からずるずる1年、恩師の導きを頂いてやっと果せたのだった。当時転職先の建設省で、前例のない不行届きの故に該当すべき処罰が見当らなかった語り草で、今以って諸先輩に頭の上らぬ始末。もう時効ですよとの機を借りて宣言する次第。

ともあれ、何に役立つかわからない夏休みのある学生がうらやましい。

(工学部一般教育等 教授)

私の夏休み

神本武征

自分が過した学生時代の夏休みを振り返ってみると、とても模範的な「夏の過ごし方」など云々する資格はない。しかし思い出してみると6年間結構楽しかった事が多い。私は本学の自動車部に入っていたので、夏休みには遠征旅行と合宿に参加することになりかなりの日数をさいたが、その合間にはお小遣いを捻出するため色々なアルバイトをした。

2年生の時は面接に行った板橋区の町工場の親爺に「君は耳がいいね」とおだてられて木琴の調律をやった。狭く暑い部屋で仕事をしたが、一台出来上がる度に「本当にこれで良いのかな」といぶかりつつ「文部省認定」とかいいうスタンプを押した。4年生になると運転の腕も大分上がったので、女子高校の臨海学校のスクールバスの運転手をした。毎朝、河津温泉の宿から水着の女の子達を今井浜の海辺に運び、夕方まで一緒に泳いだ。夜は校長先生達と麻雀に興じ、これでアルバイト料がもらえるという最高の一週間であった。

夏休み特集なのでやはり読書について一言。私も一年生の夏には人並にまとまったものを読もうと、かの格調高きトーマス・マンの「魔の山」(冬山登山の話ではない)に挑んだ。今思えば半年か1年かけてじっくり読むべきだったが、計画通り夏休み中に読み終えた。この性急さのおかげで主人公カルトプスがヨーロッパ戦線のぬかるみの戦場を突撃する暗いラスト以外ほとんど内容を憶えていない。その後、硬派長篇からは次第に遠去かり、方針も傾向もはっきりしない読書になった。長野にある叔母の別荘に従妹達と滞在した夏は、たしか「現代絵画の解剖」、「零式戦闘機」、「共産党宣言」(60年代前半は

レフトがファッションだった)などを持って行った。庭の椅子でこれらの趣味的な本を読み、飽きたら目の前の浅間山の水彩画を何枚か描いた。

長野から川口に帰るとやけに暑く、とても家にじっとして居られない。そこで文系に進んだ高校時代の親友を誘って冷房の効いた映画館に逃げ込む。夕暮のピアホールで観てきた映画について「ベルモンドが尻を撃たれて死ぬのは当を得ている」などと評論しあった。ある夏は近代美術館のフィルムライブラリで溝口健二特集を一週間続けて観たこともある。これは楽しい上に安上りだった。

このように私の夏休みはとりとめなく、ただ日頃やりたいと思っていたことをやるという風であり、今の一般的な学生と変らないだろう。

(工学部機械工学科 助教授)

新しい経験を求めて

軽部征夫

夏休みはまとまった休みなので、普段やりたいと思ってもなかなかできなかったことなどにチャレンジする絶好の機会である。旅行に出かけたり、涼しい所に行って読書三昧にふけるのも良いと思う。また通常とは異なった生活を経験するのも楽しいものである。例えば、会社などに実習に行くのは社会勉強と実益をかねた良い夏休みの過しかたの一つだと思う。現場に行って汗を流しながら製品生産プロセスを理解したり、人間関係の重要性を学ぶことができる。また研究室などで色々と実験をさせてもらうと将来役に立つ知識を得たり、経験をすることができる。特に自分の専攻に関連する会社などで実習を行なった場合には将来の進路を決める上で参考になることが多いであろう。

今年は間にあわないと思うが、さらに企業での実習は国内だけでなく、海外でも可能である。例えば、日本国際学生技術研修協会(イアエステ)が世話している、理工系学生のための夏期休暇中の海外企業での実習がある。今年も東工大から14名ぐらいの学生がヨーロッパ諸国、アメリカなどの企業に実習に出かけることになっているそうである。海外企業での実習は海外の工業の実態や研究の一端を理解するとともに、約2ヶ月間その国で生活するのであるからその国の人々と積極的に交際すれば、相互理解を深めることができる。またその国の言葉をマスター

する絶好のチャンスでもある。現地での研修期間中の食費、宿泊費、通勤費などは受入企業などで負担してくれるが、往復の旅費は自己負担しなければならない問題はあるが……………。

要は夏休みな豊かな人間性をはぐくんだり、9月からの授業や研究に邁進できるようなポテンシャルを蓄えるような過しかたができればよいのではないかと思う。
(資源化学研究所 助教授)

夏休みと学生生活

中村良夫

大学生に夏休みの暮し方までとやかく言うのは、いかにも気がひける。

勉学の仕方について日頃、小言めいたおせっかいをやくのは当然としても、夏休みの使い方まで口を出されたのでは学生諸君もたまらないだろう。また、そうであって欲しいと思う。何をして過ごしたらよいのか、全く思いつきもしないようであったなら、先ず夏休みどころか、青春時代の設計にどこか間違いがありはしないか根本的な反省を必要とするに違いない。

私も夏休みには人並みの事は一応やった。ふだん、どちらかといえば、ぐうたらな生活であったからといって、特に変わりばえはしないはずなのに、どうしたわけか、休みに入ると、とたんに早起きになった。夜明けの冷気にひたりながら縁側に机をもちだし、これはと目をつけた本の最初のページをめくる。他の事は、あらかた忘れてしまったが、その瞬間のふるえるような楽しさだけは忘れない。

どうも私にとって、夏休みとは自分に出会うための冒険を許されたときであった。そう思われる。

(工学部社会工学科 教授)

附属図書館夏季休館について

休館期間：7月18日(日)～8月10日(木)

蔵書点検ならびに新システムによる電算化準備作業および省エネルギーの為休館いたします。

なお、長津田分館については7月18日～7月24日、8月1日～8月10日まで休館。

問い合わせ先 附属図書館閲覧課閲覧掛

内線 2094, 2097

メスバウアー効果実験グループ について

代表者 久武和夫

グループ研究「メスバウアー効果の応用」が57年4月に採択された。丁度その頃、電子物理学工科野村研究室に56年度予算で購入された最新型メスバウアー spektrometer (ELCINT社 AME-30+ Promeda-01に、マイコンとして PANA FACOM C-180を接続)の整備が終り、学内共同利用を開始しようとしていた所であった。野村教授は概算要求時からこの装置は共同利用にしたいと言っておられたが、一方この装置は放射性同位元素 ^{57}Co を使用するので、協議の末理学部放射性同位元素実験室に置き、全学で共同利用することにした。そこでグループ研究のメンバーと密接に連絡を保ちつつ、毎月一回専門委員会を開き、当日まで専門委員長(電子物理工学科阿部正紀助教授)の所に書面で申し込まれた研究テーマについてマシントimeを決定することにした。大体1ヶ月に5~6テーマを採択して来ており、58年5月19日現在に於て通算88テーマを採択している。といっても大部分のテーマは5~10回の継続実験なので、テーマの種類としては今の所10位である。

2~3のテーマについては、57年4月に開かれたグループ研究の会合で紹介して頂いたが、それから1年も経過したので、研究成果を実験報告集としてまとめグループ研究のメンバー及び希望者に配布することにした。以下にまとめた研究テーマ及びその要旨を述べる。

- (1) 神崎忠雄 他(桂研):水溶液からのMo-フェライトの合成

^{57}Co 線源を用いたメスバウアー spektrometer から Mo イオンが実際に格子点に取りこまれていることを確認した。

- (2) 米倉義満 他(久武研):比例計数管によるメスバウアー spektrometer の層別解析

電子 spektrometer を用いた層別解析はよく知られているが、この研究では後方散乱型ガスフロー ($\text{He}+10\%\text{CH}_4$) 比例計数管を用い、メスバウアー吸収後放射された内部転換電子を検出し、その波高値からエネルギーを分け、層別解析が行えることを示した。

- 3) 伊藤順司 他(久武研):内部転換電子メスバウアー分光法による H^+ 注入希土類鉄ガーネット膜の研究

$22\%^{57}\text{Fe}$ をふくむ希土類鉄ガーネット膜に種々のdose量の 50KeVH^+ イオンを注入し、比例計数管を用いてメスバウアー spektrometer を取った。次に $800\sim 4000^\circ\text{A}$ エッチングしてメスバウアー spektrometer を取り深さ変化を求めた。

- (4) 宮坂仁 他(久武研),若林英彦(橋本研):低温における希土類鉄ガーネット膜のメスバウアー spektrometer

野村研で購入したメスバウアー spektrometer の附属品として購入した低温装置を用い、6, 79, 210K 及び室温のメスバウアー spektrometer を測定し、内部磁場の温度変化を調べた。

- (5) 永田和宏 他(後藤研):メスバウアー分光分析による酸化クロム含有スラッグの $\text{Fe}^{3+}/\text{Fe}^{2+}$ の分析
 Cr_2O_3 をふくむ FeO と Fe_2O_3 の濃度比を化学分析で求めるかわりに、メスバウアー spektrometer 中の Fe^{3+} のピークと Fe^{2+} のピークの面積比から求めた。

- (6) 柴田純夫 他(大門研):カルシウムアルミノフェライト固溶体の水和反応生成物のメスバウアー効果

ポルトランドセメントを構成する化合物の一つであるカルシウムアルミノフェライト固溶体から生成する水和物のメスバウアー spektrometer から鉄の状態分析を行った。

- (7) 日野出洋文 他(谷口・協原研):Nb-Fe-S系層状化合物のメスバウアー効果

測定したメスバウアー spektrometer から試料は常磁性でありFeは2価の高スピン状態であることが分った。また電場勾配の主軸も決定出来た。

- (8) 阿部正紀 他(野村・阿部研):複合ペロブスカイト A_2FeMoO_6 ($\text{A}=\text{Ba}, \text{Sr or Ca}$)のメスバウアー効果

複合ペロブスカイトの一つ $\text{Sr}_2\text{FeMoO}_6$ の粉末試料のメスバウアー spektrometer を 400°C 2時間の熱処理の前後に測定したが、変化がなかった。このデータから加熱により表面以外は酸化されないことが分った。

- (9) 星陽一 他(山中・直江研):窒化鉄薄膜の研究
膜中のFe原子の結合状態や膜中の鉄スピン方向をメスバウアー spektrometer から調べた。

- (10) 眞行寺武上 他(中村 研):FeTe-CrTe固溶体のメスバウアー効果

FeTe及び FeTe_3 のアイソマーシフト及び四重極分裂の値からこれら物質の磁氣的性質を明らかに

した。

以上の研究の、より詳細な実験報告集は6月末に出来上がる予定である。入手を希望される方は、筆者又は研究協力課にお申し込み下さい。

「メスバウアー効果実験装置」は学内共同利用に開放していますので、グループ研究のメンバー以外の方も使用出来ます。この装置を用いて実験したい方は、実験したい月の前月の15日までに阿部正紀助教授(内線3039)に、所定の用紙に実験計画書を書いてお申し込み下さい。但し放射性同位元素を使う実験ですから、あらかじめ「放射性同位元素等作業従事者登録」をする必要があります。現在申し込み者が多数でマシンタイム割当に専門委員会では大変苦勞されているようですが、なるべく多くの人に使ってもらい成果をあげてもらうための装置ですからどしどしお申し込み下さい。新規申し込みは優先する方針を取っています。(理学部応用物理学科 教授)

第15回 学内五月レガッタ

いよいよ夏らしくなり、暑い日が続く中、5月26日、創立102周年を記念して五月レガッタが盛大に開催されました。本学の精鋭たちが、戸田オリンピックコースに集まり、4人一組となって、その腕を競ったのです。参加数18クルー、72名。教務関係者、ボート部員を合わせると総勢120名が、普段は各大学のボート部の練習で賑わうコースを借し切り、ボートレースに爽やかな汗を流しました。

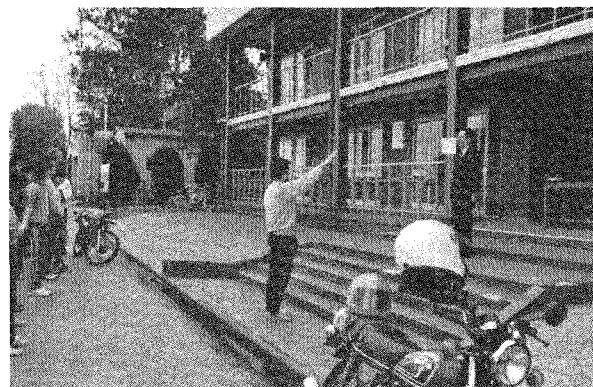
我こそ優勝し栄光の祝杯をあげようと、早々と来て練習するクルーも数多くみられました。その練習も一通り終わり、午前10時30分には参加者全員が整列し開会式が行われました。岩田教務部次長による会長挨拶があり、続いて優勝杯が返還され、元気な選手宣誓が行われるとレガッタの雰囲気が盛り上がります。

さて、予選は4杯レースで、1位が準決勝へ、2, 3, 4位が敗者復活戦です。距離は400m。「ヤングチャー号」の2分9秒、「四喜和」の2分10秒等、好タイムが続出しました。敗者復活戦は3杯レースで1, 2位が準決勝へ進出です。0.9秒差で惜しくも準決勝進出を逃がしたクルーが出るなど、まさに実力、気力伯仲です。ここで昼休み。冷えたジュースとボリュームたっぷりの特製カレーライスで腹ごしらえです。和やかな雰囲気の中にも、次の準決勝に向けての緊張感があらわれています。

準決勝は3杯レースで、1位のクルーは決勝へ、



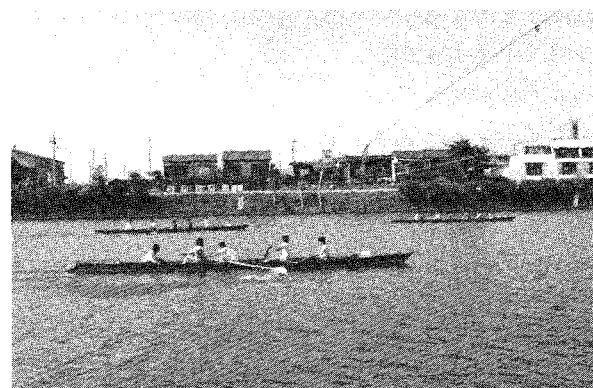
全員集合



選手宣誓

2位は、6～10位決定戦、3位は11～15位決定戦です。5レース中3レースが、1位と2位の差が2秒以内と、大変な盛り上がりようです。なにしろビールがかかっています。

2つの順位決定戦の終了後、いよいよ決勝戦です。1L(レーン)「タコのタロー」。2L「戦場の英傑行列だがや」。3L「スーパースガン山下君」。4L「まんころがし」。5L「Big-Ben」。1L, 3Lはともに敗者復活からあがってきたクルーです。艇の故障で多少スタートが遅れましたが、3Lが他のクルーを振り切って初優勝です。3Lは4人の息がぴったりでした。ボートは力だけのスポーツでなく、



各チーム力漕

チームワークが大切なのです。

閉会式では、優勝杯・賞状、ビール券が、そして参加者全員にはタオルが一枚ずつ渡されました。みんな全身に心地よい疲れを感じているようでした。

途中我々の不慣れのため試合が遅れたこともありましたが、参加者全員の協力で盛会に無事終了したことを感謝します。今後さらにこの五月レガッタが教職員、院生、学生、留学生の交流の場として、全学あげての水上運動会になるよう努力いたします。

ボートを漕いだ感想

情報科学科3年 高館 公人さん

「一生懸命漕ぎました。優勝できて感激です。優勝カップに再び来年の優勝を誓いました。」

建築学科 茶谷正洋教授夫人、茶谷芹子さん

「本当に楽しい時を過ごしました。また漕ぎたいと思います。ただ女性が少なかったのが残念でした。」

建築学科茶谷研究室 助手 八木幸二さん

「初出場でビール20本、と言えは2位だったように聞こえますが、実は研究室で2チーム出したのです。高齢組が4位、若者組が6位、そして若者組はベストタイム賞も獲得。気をよくして屋上でビアパーティを行ないました。来年は1位の40本を狙います。」

第15回 学内五月レガッタの結果

優勝「スーパースガン山下君」	ビール	40本
2位「まんころがし」	ビール	20本
3位「戦場の英傑行列だがや」	ビール	10本
4位「Big-Ben」	ビール	8本
5位「タコのタロー」	ビール	6本
6位「ヤングチャー号」	ビール	4本
7位「どひやんのうこん」	ビール	2本
8位「四喜和」	ジュース	4本
9位「三木ちゃんズ」	ジュース	3本
10位「イタコのイタロー」	ジュース	2本
11位「ヒヤミズ」	ジュース	1本
12位「牛井丸太郎」		
13位「尺八吹き子」		
14位「いっころターボ」		
15位「伊賀の影丸」		
ベストタイム賞「ヤングチャー号」		
ワーストタイム賞「伊賀の影丸」		

東工大ボート部 五月レガッタ担当 落海一哉

キャンパスニュース

第18回大岡山現代講座開かれる

去る6月1日(水)午後1時半から第一会議室に於いて、講師に前東京大学学長向坊 隆氏を迎えて第18回大岡山現代講座が開かれた。

「中国の科学技術と日中協力」のテーマで、中国の科学技術の現状とこれに対する同氏の考え、提言など卒直な意見を交えて話された。

なお、今回の講演会には特に中国からの留学生約20名の聴講が目立った。



トピックス

パワーリフティングで新記録

さる、5月14・15の両日、埼玉大学において、第35回関東学生パワーリフティング選手権大会が行なわれ、本学の福島亮君（応用物理学科2年）が最も軽い56kg級に出場し、スクワットで125kgを挙げました。この記録はジュニア（20才未満）の日本新記録で、従来の記録を10kgも上まわる立派な記録であります。

この福島君の快挙が刺激となって、われわれ、ウエイト・トレーニングクラブ員一同増々練習に励み、次回の大会には、第二、第三の福島君が生まれるよう頑張っています。なお、ウエイト・トレーニングクラブは武道館内トレーニングセンターにおいて練習しています。ちょっと興味のある人、いっぱい興味のある人、やせたい人、太った人、一度練習に参加してみませんか。健康な体は一生の財産です。

（主将・高橋祐二）

科学 研 究 費 配 分 内 定

昭和58年度文部省科学研究費補助金の配分内定通知が5月下旬に文部省からありました。本学関係分は、新規・継続を合わせて採択件数301, 配分予定額895,523千円でした。昨年度分との比較対照は次のとおりです。なお、奨励研究Bも配分が予定されていますが、ここには含まれていません。

新 規 分

区 分	昭 和 57 年 度					昭 和 58 年 度				
	件	申請額(千円)	件	配分予定額 (千円)	採択率 (%)	件	申請額(千円)	件	配分予定額 (千円)	採択率 (%)
がん特別研究(1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
がん特別研究(2)	1	3,500	0	0	0	1	3,500	0	0	0
自然災害特別研究(1)	1	6,204	1	3,600	100	—	—	—	—	—
自然災害特別研究(2)	3	10,835	0	0	0	3	15,492	1	2,600	33.3
環境科学特別研究(1)	3	25,906	3	20,200	100	2	4,718	0	0	0
環境科学特別研究(2)	—	—	—	—	—	3	8,766	0	0	0
エネルギー特別(エネ1)	8	130,223	6	96,600	75	6	86,960	5	57,800	83.3
エネルギー特別(エネ2)	12	36,125	4	9,900	33.3	19	67,283	9	22,600	47.4
エネルギー特別(核融合1)	5	99,859	4	46,050	80	5	97,902	4	44,500	80
エネルギー特別(核融合2)	3	31,901	3	18,150	100	5	34,147	2	8,500	40
特定研究(1)	7	156,818	7	120,500	100	7	141,458	6	108,500	85.7
特定研究(2)	24	88,163	11	29,500	45.8	36	123,026	14	33,800	38.7
総合研究A	22	171,168	5	21,200	22.7	25	215,630	7	39,800	28
総合研究B	4	11,378	1	2,600	25	10	30,360	4	6,900	40
一般研究A	32	622,833	8	144,500	25	30	703,635	5	77,800	16.7
一般研究B	103	679,510	30	156,900	29.1	111	755,714	22	109,600	19.8
一般研究C	216	501,098	62	102,110	28.7	210	502,116	55	84,440	26.2
奨励研究A	146	133,488	79	62,550	54.1	169	185,159	77	70,380	45.6
試験研究(1)	11	87,319	1	3,600	9.1	17	152,536	3	17,300	17.6
試験研究(2)	107	542,437	27	100,500	25.2	112	586,486	18	87,900	16.1
小 計	708	3,338,765	252	938,460	35.8	771	3,714,888	232	772,420	30.1

継 続 分

自然災害特別研究(1)	1	10,900	1	10,900		1	4,300	1	4,300	
総合研究A	3	9,200	3	9,200		6	22,600	6	22,600	
一般研究A	13	40,100	13	38,900		12	34,930	12	33,200	
一般研究B	27	49,861	27	48,200		32	48,153	32	45,503	
一般研究C	11	4,998	11	4,750		11	6,300	11	6,300	
試験研究(1)	1	3,000	1	3,000		—	—	—	—	
試験研究(2)	9	12,700	9	12,700		7	11,200	7	11,200	
小 計	65	130,759	65	127,650		69	127,483	69	123,103	
合 計	773	3,469,524	317	1,066,110	41	840	3,842,371	301	895,523	35.8

各種委員会委員名簿

(昭和58年5月現在)

前号(6月号 No.158)に引き続き、学内規則に基づく各種委員会の委員名簿を掲載します。

(◎印委員長, ○印副委員長)

長津田地区整備計画委員会

大学院総合理工学研究科長	○明島 高司
資源化学研究所長	鈴木 周一
精密工学研究所長	◎森 栄司
工業材料研究所長	浜野 健也
天然物化学研究施設長	野宗 嘉明
像情報工学研究施設長	安居院 猛
理学部評議員	本間 龍雄
工学部評議員	石原 舜介
大学院総合理工学研究科評議員	市川 惇信
大学院総合理工学研究科	岸 源也
	大瀧 仁志
	林 国一
	武者 利光
	古川 静二郎
	丹生 慶四郎
資源化学研究所	佐伯 雄造
精密工学研究所	梅川 莊吉
工業材料研究所	黒正 清治
天然物化学研究施設	橋本 弘信
像情報工学研究施設	小門 宏
附属図書館長	市川 惇信
総合情報処理センター長	池辺 潤
研究・情報交流センター長	小林 啓美
総合研究館長	小林 啓美
工学部	吉見 吉昭
教務部長	田中 良平
事務局長	鈴木 博司
幹事	庶務部長 経理部長 施設部長 附属図書館事務部長 総理工等事務部長 総理工等庶務課長 理学部事務長 工学部事務長 総合情報処理センター事務長

エックス線障害防止専門委員会

理 学 部	高柳 邦夫
工 学 部	島内 浩喬
	◎加藤 誠軌
	田村 博
	入戸野 修
大学院総合理工学研究科	佐藤 彰一
資源化学研究所	佐伯 雄造
精密工学研究所	大浦 宣徳
工業材料研究所	森川 日出貴
原子炉工学研究所	高木 隆三
幹事	研究協力課長

総合情報伝達システム運営委員会

理 学 部	河村 一知
工 学 部	八木 克道
	早川 豊彦
	辻井 重男
	末松 安晴
	吉見 吉昭
大学院総合理工学研究科	伊賀 健一
	糟谷 紘一
資源化学研究所	石田 愈
精密工学研究所	上田 光宏
工業材料研究所	小池 迪夫
原子炉工学研究所	高橋 亮一
附属図書館長	市川 惇信
教育工学開発センター長	森 政弘
総合情報処理センター長	池辺 潤
研究・情報交流センター長	小林 啓美
総合研究館長	小林 啓美
工学部	中条 利一郎
大学院総合理工学研究科	◎岸 源也
教育工学開発センター	清水 康敬
教務部長	田中 良平
事務局長	鈴木 博司
幹事	庶務部長 経理部長 施設部長 研究協力部長 教務部次長 総理工等事務部長

極低温エネルギー実験センター運営委員会

センター長	栗野 満
センター助教授	大塚 美枝子
理学部長	早川 宗八郎
理学部	永田 一清
工学部	小尾 欣一
	越後 亮三
	佐藤 則明
大学院総合理工学研究科	武者 利光
	塩田 進
精密工学研究所	若島 健司
原子炉工学研究所	織田 暢夫
事務局長	鈴木 博司
幹事	理学部事務長

総合研究館運営委員会

理 学 部	池川 信夫
工 学 部	野宗 嘉明
	小坂 丈子
	坂田 勝
	野村 昭一郎
大学院総合理工学研究科	森 勉
	高原 康彦
資源化学研究所	田附 重夫
精密工学研究所	梅川 莊吉
工業材料研究所	木村 脩七
原子炉工学研究所	井上 晃
研究委員会委員長	笹田 義夫
総合研究館長	小林 啓美
事務局長	鈴木 博司
幹事	総理工等事務部長

保健管理センター運営委員会

保健管理センター所長	◎稲田 祐二
センター助教授	榎本 稔
	林 仁忠
理学部	鈴木 光男
工学部	井上 一郎
	桐生 武夫
大学院総合理工学研究科	清水 勇
資源化学研究所	広瀬 千秋
学生相談室長	清水 二郎
教務部長	田中 良平
事務局長	鈴木 博司

◇お詫び 6月号(No.158)各種委員会委員名簿の中で広報委員会委員に原子炉工学研究所 佐藤 伸教授の名前が洩れておりました。お詫びして追加訂正いたします。

総合情報処理センター運営委員会

センター長	◎池辺 潤
センター助教授	前野 年紀
理学部	堀江 久
工学部	○木村 泉
	菊池 実
	小川 浩平
	和田 章
	長松 昭男
大学院総合理工学研究科	海野 肇
資源化学研究所	仲 勇治
精密工学研究所	今井 聖
工業材料研究所	橋爪 弘雄
原子炉工学研究所	北本 朝史
教育委員会委員	小林 宏
研究委員会委員	小林孝次郎
附属図書館長	市川 惇信
教務部長	田中 良平
事務局長	鈴木 博司
幹事	センター事務長

研究・情報交流センター運営委員会

センター長	◎小林 啓美
理学部	池川 信夫
工学部	○野宗 嘉明
	小坂 丈予
	坂田 勝
	野村昭一郎
大学院総合理工学研究科	森 勉
資源化学研究所	高原 康彦
精密工学研究所	田附 重夫
工業材料研究所	梅川 莊占
原子炉工学研究所	木村 脩七
総合研究館長	井上 晃
研究委員会委員長	小林 啓美
事務局長	笹田 義夫
	鈴木 博司
幹事	研究協力部長 総理工等事務部長

留学生会館運営委員会

教務部長	◎田中 良平
留学生委員会	柳沢 健
厚生補導委員会	渡辺 隆
	戸田不二緒
	関根 太郎
理学部	井上 淳
工学部	森泉 豊栄
大学院総合理工学研究科	梶島 成治
原子炉工学研究所	富安 博
留学生相談主事	森田 次郎
工学部	沼沢 治治
	片山 功蔵
	原 芳男
事務局長	鈴木 博司
幹事	教務部次長 教務課長 厚生課長

お知らせ

大洗合宿研修所にテニスコート・バレーコート完成！

かねてから大洗合宿研修所の敷地内にテニスコートとバレーコートの造成が強く望まれていましたが、このたび2面の全天候型のコートが完成したので合宿・研修等の際に健康増進の一助として十分に活用してください。

なお、「使用心得」は下記のとおりです。

テニスコート・バレーコート使用心得

このテニスコート及びバレーコートは、原則として本学学生及び教職員等の専用コートです。

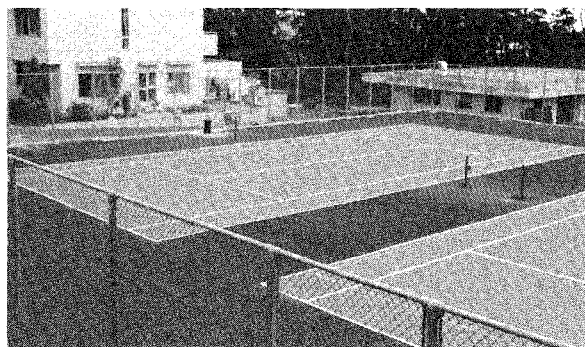
コートは一般のグラウンドと異なり、良好なコンディションを保持するためには特に入念な整備をしておかなければなりません。コートを使用する人は常にコート整備を心掛け、お互いにルールを守っていつも最良のコートコンディションで気持ちよくプレーできるよう努力しましょう。

このコートの使用上の注意事項は次のとおりです。

1. コートの使用は、厚生課寮務掛へ使用する1週間前までに申し込み、使用許可書の交付を受けること（直接、研修所では受付けない。）
2. 使用許可書はコート管理者に渡し、引換えにコート入口の鍵を受けとり、使用後は施錠のうえ鍵を管理者に返却すること。

3. 使用時間は午前9時から午後5時までとする。
4. コートの使用は1面につき原則として2時間以内とする。
5. コート内では常に所定の服装、運動靴を着用すること。
6. ラケット、ボール等は各自持参のこと（ただし、バレーボールは現地で貸出す。）
7. コート内での喫煙は禁ずる。
8. コート整備について
 - (1) コートがぬれているとき、又は鳥のふんなどがあるときは、所定の用具を使い整備のうえ使用すること。
 - (2) 使用した用具は所定の場所にきちんと整理しておくこと。
9. その他、コート管理者の指示に従うこと。

（教務部厚生課）



学生用図書の選択について

例年、学生諸君の学習、研究、教養に必要と思われる図書を購入しています。本年も6月17日の図書館委員会で58年度の収書計画が決まり、次の学生用図書選択委員会委員の方々が、各選書分野ごとに図書の選択に当ると共に、学内利用者の希望を取り入れることになりました。

図書の購入希望者は、学生用図書選択委員会委員に申し込むか、図書館各階閲覧室に備え付けの投書箱をご利用ください。

なお、不明の点は、附属図書館整理課第一受入掛（内線2092）へ問い合わせてください。

昭和58年度学生用図書選択委員会委員

所 属	官職	氏 名	選 書 分 野
理) 数 学	助教授	増田一男	数 学
物 理	"	小野昱郎	物 理
一般教育 (化学)	"	八嶋建明	化 学
一般教育 (生物)	教 授	平本幸男	生 物
工) 金 属	助教授	入戸野 修	金 属
無機材料	教 授	小坂丈子	地 学
化学工学	助教授	中井 武	化学工学
原子炉工学研	"	北本朝史	"
工) 生産機械	"	恩沢忠男	機 械
経 営	教 授	秋庭雅夫	経営・経済
電気・電子	助教授	南 一男	電気・電子工学
社会工学	"	渡辺貴介	建築・土木・社会工学
資源化学研	"	軽部征夫	医学・薬学
工) 一般教育 (人文)	教 授	前原昭二	総記・哲学・歴史・社会
一般教育 (外国語)	講 師	大友 進	芸術・語学・文学
理) 天 然 物	助教授	矢戸和夫	
大学院総合理工	"	高柳邦夫	
"	"	野中 勉	
"	"	小林孝彰	長津田分館
資源化学研	"	正田 誠	
精密工学研	"	上田光宏	
工業材料研	教 授	沢岡 昭	

昭和59年度大学院修士課程入学試験実施日程

昭和59年度の大学院修士課程入学試験は、下記の日程で実施されます。詳細については、教務部教務課入学試験掛（内線2066, 2067）まで問い合わせてください。

なお、同試験に関する募集要項は7月上旬にできあがりますので、同掛まで申し込みください。

記

願書受付 昭和58年8月5日(金)～8月11日(木)

学力検査 昭和58年8月24日(水)～8月26日(金)

口頭試問受験資格者発表 昭和58年9月13日(火)

口頭試問 昭和58年9月14日(水)～9月19日(月)

健康診断 同 上

合格者発表 昭和58年9月29日(木)

学位（博士）授与者

昭和57年度博士課程を修了し学位（博士）を授与された24名について、氏名、学位記番号、論文題目を掲載します。

昭和57年12月31日付授与者

工学博士

レ・バン・ミン：工博第1011号

Phase Equilibria in Aqueous Solutions of Polyelectrolyte-Nonelectrolytic Polymer

菅野善則：工博第1012号

Y型ゼオライト触媒による一酸化窒素の不均化反応に関する研究

門前亮一：工博第1013号

Cu-Fe合金の微小Fe粒子の変態，Fe粒子による分散強化及び拡散による応力緩和

昭和58年1月31日付授与者

工学博士

飯島淳一：工博第1014号

Mathematical Foundations for Algebraic Decomposition Theory

昭和58年3月26日付授与者

理学博士

山口耕平：理博第424号

On the Self-homotopy Equivalences of the Wedge of Certain Complexes

磯川幸直：理博第425号

On the Representation and the Esti-

mation of Periodicity of Some
Calasses of Nonstationary Stochast-
ic Processes

宗久保子：理博第426号

動径可変なスカラー場と結合した Z_2 格子
ゲージ理論の相構造

吉田晴男：理博第427号

磁性体のスピンドYNAMICSおよびポ
ッツモデルの相転移の研究

中山光一：理博第428号

π 中間子原子核反応における生成粒子の
相関の研究

飯村 晃：理博第429号

銅クロム複合酸化物の構造と触媒作用

笠井道之：理博第430号

Studies on the Mechanism of Muscular
Contraction in Chicken Gizzard

飛田成史：理博第431号

Photodynamics of Metal Coordination
Compounds

中村芳雄：理博第432号

非極性凝縮相媒体中における過剰電子の
輸送過程および再結合過程の研究

平尾一郎：理博第433号

2',5' オリゴリボヌクレオチドの合成と
その物性

吉田 宏：理博第434号

共鳴ラマン散乱およびケイ光法による液
晶の配向秩序度の研究

渡邊修一：理博第435号

Occurrence of Carbon in Mantle
Materials

大志万直人：理博第436号

A Study of Tectonomagnetism in the
Izu Region

石島純夫：理博第437号

Mechanical Properties of Sperm
Flagella

内藤幸一郎：理博第438号

Mathematical Analysis of Reaction
Diffusion Systems

馬場 裕：理博第439号

Algorithmic Methods in Bulk Queues

工学博士

梶原正憲：工博第1015号

Ni-Cr-WおよびNi-Cr-W-C系の相平衡
に関する研究

近藤克己：工博第1016号

強誘電性液晶を利用した高速ディスプレ
イ設計の基礎的研究

照井 俊：工博第1017号

PAN素炭素繊維の製造における不融化処
理過程中的熱機械的挙動と構造変化に関
する研究

馬場俊秀：工博第1018号

ヘテロポリ酸素触媒によるメタノールの
炭化水素への転化反応に関する研究

— 教官寄贈図書 —

野村昭一郎（教 授）：量子力学の基礎と応用

武者利光（教 授）：量子効果ハンドブック

梅垣寿春（教 授）：1978-Seminar on Applied

Functional Analysis

1979-Seminar on Applied

Functional Analysis

Third Seminar on Applied

Functional Analysis 1980

Fourth Seminar on Applied

Functional Analysis 1981

Fifth Seminar on Applied

Functional Analysis 1982

力武常次（元教授）：物理数学Ⅰ 地球科学を主体
として（基礎編）

物理数学Ⅱ 地球科学を主体
として（応用編）

~~~~~ 編 集 後 記 ~~~~~

学生諸君には、楽しい夏休みも間近になりました。しかし、夏休みが終るとすぐに期末試験が待っています。就職試験もはじまります。大学院修士課程の入学試験もあります。

今年の夏の暑さは？ 気象庁が発表する長期予報もあまり当てになりません。夏らしい天気がつづくよう願うだけです。

秋にそなえて、エネルギー不足にならないよう健康に留意してください。特に、この時期は山や海に出かける機会が多くなります。事故には十分ご注意ください。

---

**東京工大クロニクル No.159**

昭和58年7月9日

東京工業大学広報委員会 発行©

東京都目黒区大岡山2-12-1 〒152

電話 03-726-1111 内線2032

---